

【様式①】令和6年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市鶉小学校

校長名 武藤 広朗

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> <li>客観的データの分析結果に基づく実態を把握し、保護者及び地域の願いを踏まえて教育課程を編成する(生命の尊厳の理解を深める教育の重点化、学校教育目標の具現化)。</li> <li>資質・能力の育成を目指した教科横断的な学習や「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりに努める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習面・生活面ともに児童アンケートを実施し、客観データの結果をもとに、各組織の提案を見直したり、学年・学級でできることを考えたりした。</li> <li>校内研修では、指導と評価の在り方について学び合い、83%の児童が、「課題に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と回答した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材教具やタブレット端末の活用など、教員の工夫や努力により、子どもたちが楽しんで課題に向かって仲間と学び合うことができています。</li> <li>「あいさつ」、「礼儀」といった学校で継続して子どもたちに指導されていることが、地域の保護者がいない場でも活かすことができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>客観的データの結果をもとに、今後も、教育課程を編成し、評価・改善を図っていく。特に、全校課題となることは、学校教育目標と照らし合わせながら組織で対応をしていく。</li> <li>家庭学習などの計画を立てて学ぶことや読書に親しむこと、家族のためにできる仕事に進んで取り組むことなどは、より家庭と情報を共有し連携して進めていく。</li> </ul>
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>9年間の児童生徒の育ちを踏まえた幼小連携並びに小中一貫教育を推進する。</li> <li>CSを核とした学校・家庭・地域が協働した指導体制を確立する。</li> <li>地域の人、もの、ことにもふれる教育活動の編成及び実施、改善し、地域のよさを実感できる児童を育てる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校区共通の指導方針を定め、児童生徒アンケートなどをもとにPDCAサイクルで取り組んだ。指導の在り方を児童生徒の姿で評価し、次年度の方針を立てることができた。</li> <li>地域人材の活用を促進し、体験活動を充実させた。ねらいに合わせた豊かな体験から児童は多くのことを学ぶことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度から勤務している大学では3つの職業体験を行うことができた。地域の協力により、子どもたちが選択をして体験を行っていた。</li> <li>学校と家庭、地域が共に連携して行う活動ではいつでも子どもたちが笑顔であった。今後もそういった活動を大切にしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も境川中学校区で共通の指導方針を立てて、9年間を見通した指導を、教職員で共有し、継続していく。</li> <li>CSを活かし、総合的な学習の時間や生活科の学習を中心に、地域人材の協力を得ながら、子どもたちが体験活動を通して学べるように教育課程の編成及び改善に努めていく。</li> </ul>
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの効果的な活用、行事や日課の見直し等による「働き方改革」を推進し、子どもと深く向き合う時間の確保と充実を図る。</li> <li>教職員間のコミュニケーションを活性化し、互いを尊重し、謙虚に学び合える「働きやすさ」と「働きがい」のある学校にする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペーパーレス化や資料の共有化、日課の見直し等により、時短につなげた。</li> <li>学年部をはじめ、教職員同士が、児童の姿を共有し、成長や願いをもって、相談したり、気遣い、助け合ったりすることを大切にしながら、協力して教育活動を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学級で色々な形で子どもたちの「よいことみつけ」が位置付けられており、学校全体で温かい気持ちを育もうと継続的に取り組んでいることが分かる。</li> <li>教職員が笑顔で元気に子どもたちと向き合っている。子どもたちも笑顔である。そういった様子から力をもらうことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体で「チーム鶉」を意識し、共に理解し尊重し合い、互いに学び合い、協力し合える関係づくりを今後も大切にしていきたい。</li> <li>様々な研修から学ぶことで各々が自ら成長することからも「働きやすさ」や「働きがい」につなげていく。特に、若手研修においてはベテランから授業づくりや学級経営について具体的に学ぶ場をもつ。</li> </ul>
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>多種多様な非常事態への危機管理意識の高揚を図り、機能的対応に努める。</li> <li>「命を守る訓練」やいじめ対応等、危機管理対応マニュアルを随時見直ししていく。</li> <li>地域と連携した防災教育の推進と交通事故等の未然防止に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>多種多様な非常変災時の訓練を実施し、児童が命を守るために、よりよく判断することができた。</li> <li>いじめ防止や問題行動対応の研修の定期的な実施、「ほっと鶉」に向けた児童会執行部中心の活動などにより、児童の「いじめはどんなことがあってもいけない」という意識が向上し、件数が減少した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止に関わって、活動の工夫をしながらいじめ防止に取り組んでいることが分かる。問題行動についても、各諸機関と連携しながら全職員で行っていることが分かった。今後も徹底した指導をお願いしたい。</li> <li>非常変災時には、地域も一緒になって子どもたちの安心・安全を守ることができるよう連携を図っていくことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰もがかけがえのない存在であることを全教職員で大切に。特に、学校いじめ防止基本方針の共通理解といじめの防止、人権教育や道徳教育の充実、危機管理能力の育成に努める。</li> <li>地域と連携協働を深めて、子どもたちを皆で守り、大切に育成していく。非常変災時に地域の方に協力いただく体制を構築する。</li> </ul>
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報の適切な管理に努める。</li> <li>施設・設備や教材教具、ICT機器の定期的な整備点検を実行する。</li> <li>財務や納入金の適切な管理と有効な運用に努める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理として個人情報管理の研修を複数回実施した。また、メール配信時は複数の教職員での確認を行った。</li> <li>備品の総点検を含め、財務環境の整備を定期的な実施し、必要な教材・教具の購入を行い、教育環境をさらに整えることができた。</li> <li>会計を複数の教職員で情報を確認をし、確実な処理に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で活用する資料をデジタル化している。校内全体でも、ペーパーレス化を進められていることが分かった。</li> <li>教室内、廊下などに子どもたちの成果物や作品が掲示されていると、明るく感じてよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物の管理の徹底を図り、有益な財務環境のもと、子どもたちの学びを促進する教育環境を充実させていく。</li> <li>子どもたちにも、物の整頓や大切に扱うなど、自己管理能力を身に付けることができるよう今後も指導をしていく。</li> </ul>

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/uzura-e/>